

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日系人等を活用した日本語教室の設置運営】

受託団体名 財団法人浜松国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

日本語能力を有する外国人が、同国出身者に対しての日本語の指導や日本文化・習慣を教えることによって、外国人コミュニティの自立と生活支援を図り、昨年度委嘱を受け行った同事業での成果・課題をふまえ、より効果的な教室展開をしていく。

また、地域の日本人住民と外国人市民の交流の場を作るために公民館を活用し、双方向からの生涯学習として日本語教育支援をすすめていくことを目的としている。本事業は別途文化庁に申請中である「日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成」事業を展開するために必要な情報源となる一方、そこで養成した指導者が活躍する場にもなる。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
平成 20 年 7 月 29 日	池上、古川、小粥、北村、児玉、川合、清	・委員長の選任 ・平成 19 年度事業実施報告と課題について ・ブラジル人のための日本語教室とフィリピン人のための日本語教室について	地域住民との交流も入られて、外国人リーダーも加え、本事業の情報周知を図る必要があること。「おしゃべりタイム」の導入で、地域在住の日本人に対してボランティア活動の協力を要請すること。
10 月 28 日	池上、清、北村、川合	・教室実施報告と進捗状況 ・課題について	・フィリピン人の教室は学習者のニーズに合わせてクラスを2つにする。レベル別ではなくて、目的別の教室にすることでレベル差を感じ

			させない授業にする。おしゃべりボランティアの活躍の場を広げる
平成 21 年 1 月 27 日	池上、石川(代理;池端)、古川、児玉、北村、川合、清	・第 2 期の教室進捗状況と課題について	運営補助者の適正と人材の発掘について、補助者の条件を整理して安定的なサポートをする必要がある。おしゃべりボランティアの効果を定義づけ、地域に周知させ誰もが参加できるように裾野を広げる。日本語教室は日本人への生涯学習にもつながる。目標値を達成する事業を目指し、おしゃべりボランティアを対象としたプチセミナーを実施すること。

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ブラジル人のための日本語教室
 - ① 日本語教室の名称
「ブラジル人のための日本語教室」
 - ② 開催場所

浜松市立北部公民館

③ 学習目標

学習者のレベルを2つ(初級2クラス・中級1クラス)に分け、日本語が必要とされる場面におけるコミュニケーションが習得できるようにする

④ 使用した教材・リソース

主教材 母国語対訳付き動詞活用表、講師自作教材など

副教材 生活ガイドブック、防災パンフレット

教 具 ホワイトボード

⑤ 受講者の募集方法

ブラジル人がよく利用する店舗(レストラン、美容院、スーパーなど)への配布を依頼、浜松国際交流協会へ相談に訪れるブラジル人へ配布

⑥ 受講者の総数 60 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 36 時間 (全 18 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

第1期

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月20日	2時間	15人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者4人 補助者1人	初級:『自己紹介』、中級:『敬語』 講師自作教材
②	7月27日	2時間	17人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者2人 補助者1人	初級:『住所の書き方』、中級:『敬語』 講師自作教材
③	8月3日	2時間	19人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者3人 補助者1人	初級:『郵便物の送り方』、中級:『敬語』 講師自作教材
④	8月24日	2時間	21人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者4人 補助者1人	初級:『郵便物の送り方・職場のことば』、中級:『数の数え方』 講師自作教材

⑤	8月31日	2時間	19人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者4人 補助者1人	初級：『薬、病 気について』、 中級：『病院・ 薬について』 講師自作教材
⑥	9月7日	2時間	19人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者4人 補助者1人	初級・中級：『杏 林堂薬局体験』 講師自作教材
⑦	9月14日	2時間	10人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者3人 補助者1人	初級：『職場の ことば』 中 級：『なし』 講師自作教材
⑧	9月21日	2時間	13人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者3人 補助者1人	初級：『職場の ことば』 中 級：『職場のこ とば』 講師自作教材
⑨	10月12日	2時間	11人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者3人 補助者1人	初級・中級『折 り紙体験・修了 式』 折り紙

第2期

回	開催日時	時間数	参加 人数	国籍・母語（人）	教授者・補 助者人数	内容
①	10月19日	2時間	15人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者4人 補助者1人 託児者1人	開講式、自己紹 介 講師自作教材
②	10月26日	2時間	17人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者3人 補助者1人 託児者1人	北部公民館ま つり
③	11月2日	2時間	19人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者3人 補助者1人 託児者1人	職場の会話 講師自作教材
④	11月9日	2時間	21人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者4人 補助者1人	趣味、嗜好 講師自作教材

					託児者 1 人	
⑤	11 月 16 日	2 時間	19 人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者 4 人 補助者 1 人	図書館の使い方（図書館ツアー）
⑥	11 月 23 日	2 時間	19 人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者 4 人 補助者 1 人 託児者 1 人	浜松城
⑦	11 月 30 日	2 時間	10 人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者 3 人 補助者 1 人	災害について 講師自作教材
⑧	12 月 7 日	2 時間	13 人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者 3 人 補助者 1 人 託児者 1 人	消防体験 防災パンフレット
⑨	12 月 14 日	2 時間	11 人	全てブラジル人・ポルトガル語	教授者 4 人 補助者 1 人 託児者 1 人	修了式

⑨ 特徴的な授業風景（2～3回分）

● 第1期

【第6回】薬局体験

第6回は、静岡県西部地域にチェーン展開するドラッグストアである杏林堂薬局葵東店の協力をいただき実際に薬や美容用品などを使って、通訳を交えながらの説明やロールプレイなどを2クラス合同で行った。

最初の20分ほど薬の服用に関する知識などの説明をし、その後レベル別に作成されたロールカードを持った学習者たちが杏林堂のカウンターに見立てた教室でカードの指示どおり実際に買い物をするロールプレイを行った。カードには「あなたは頭が痛いです。熱があります。」などの場面設定が記され、学習者たちは積極的にいろいろ試す人と、難しいと感じしり込みしてしまう人と分かれたが、全体的ににぎやかな雰囲気でも活動した。ロールプレイのあとシャンプーや化粧水、美容クリームに関する知識を説明したところ、女性の学習者からかなりの反応があり、「しっとり」「さっぱり」の違いを実際にテストのクリームを手につけて教えた。



☆「だめです」のジェスチャー



☆「しっとり」「さっぱり」の違いは？体感してみました

【最終回(第9回)】 折り紙体験

北部公民館で活動する折り紙サークルのボランティアの方5人に来ていただいて1時間ほど折り紙体験をした。何枚かの折り紙を使って小さな箱の作品をつくることに挑戦し、大きな折り紙で練習したのち、模様の入った本番用の折り紙で各自作品作りをした。講師の金城アイコさんが通訳をし、残りの折り紙ボランティアの方が巡回指導をした。参加人数が通常より少なかったため残念ではあったが、細かく学習者ひとりひとりに指導にあたることができた。学習者は戸惑いながらも一生懸命作業に集中し、「きれい」や「お土産やプレゼントを入れたら素敵かもしれない」などの声が聞かれた。ずば抜けて作業が早い学習者もあり、なんと日本人のおしゃべりボランティア¹に折り方を教えていた。また真っ先に作り終わってから個別に先生から別の作品の指導を受けたりもしていた。最後は無事みんな完成し、折り紙ボランティアの方が用意してくれて余った折り紙を皆で分け合った。



¹ 外国人と日本語でおしゃべりをするボランティア。主に授業終了前の30分間の「おしゃべりタイム」で学習者と自由なおしゃべりを楽しむために来ている。

● 第2期

【第2回】公民館まつり

会場の北部公民館で開催される「北部公民館まつり」へ参加した。公民館で活動しているサークルによる作品展示や、さまざまな模擬店が出店するので毎年住民が楽しみにしているまつりである。昨年度も参加した経緯から、生け花展示とお茶体験のサークルの方に許可をいただき、スタンプラリー形式で見学をした。生け花展示を周り、講師の方々にサインをもらっていたところ、外が騒がしくなり聞きなれた音楽が流れ始めた。なんと公民館が日伯 100 周年を記念してサンバチームを招いていた。外に行くと、学習者は軽快に踊りだし、周りの日本人もリズムに乗って手拍子をしていた。その他にも北部公民館では自主事業のひとつにポルトガル語講座を設けているので、大きな板に簡単なポルトガル語会話文を掲示していた。それを見てポルトガル語で話しかけてくる日本人もあり、いつも以上に地域住民との交流を図ることができた。

また、お茶体験のコーナーでは昨年にも体験させてくださった茶道の先生が今年のことも覚えており、「今年もお待ちしてましたよ」と歓迎してくださった。この先生はブラジルへ茶道を教えに行った経験があり、「ブラジルでお世話になった感動が忘れられない、恩返しをさせてほしい」と言い一切お金を受け取らずに全員にお茶をたててくださった。お茶菓子も用意してくださったが、そのお菓子は「ブラジルの国の形がブドウみたいなのが印象的だったから」とブドウ入りのお菓子であった。学習者は何度も「ありがとう」と言い、見ず知らずの自分たちによくしてくださる先生へ感謝していた。



【第6回】浜松城見学

北部公民館が使えないため、浜松城へ歴史を学びに行くことになった。浜松城は、徳川家康が 17 年間に在城した、江戸幕府 300 年の原点となった出世城である。現在は、若き日の家康と城下町の資料を多数展示している。「浜松に住むならまず歴史を知ろう」というバイリンガル講師の提案だ。

専門の観光ボランティアガイド²の方(男 1 人、女 2 人)をお招きし、城内ガイドをしていた

² 地域の歴史・文化・産業など浜松の観光を案内するボランティアの集まり

いた。参加人数が少なかったため、クラス別には分かれず、おしゃべりボランティアの方と観光ボランティアガイドの方を間に挟むようにして巡った。観光専門のガイドの方の説明は時折笑いも入るような軽妙なもので、受講者の興味関心を強く引いたようだった。その際、必ず通訳として講師が補足説明したが、それ以外にも講師が時折個別に説明をさしはさむ場面もあった。

浜松の歴史の中で、^{つぎやまごぜん}築山御前という徳川家康の正室の話がある。彼女は「信長の十二ヶ条」により浜松で「死を賜う」旨を使者から受け、浜松城を目前にして殺害された悲劇のヒロインである。そのストーリーを観光ボランティアが説明したところ、ある学習者一家が「すごい！もしかして！」と歓喜の声をあげていた。実はその学習者一家の名字は「^{つぎやま}築山」だったのだ。「もしかしてなにかゆかりがあるのかもしれないから、ブラジルの親戚にも教える」と、言って、観光ボランティアの方に詳しい話を聞いていた。このことがきっかけで、学習者は浜松の歴史に興味を持つようになり、「浜松に住むならまず歴史を知ろう」という本来の目的を達成できたといえる。

展望台に行くと、少しではあるが富士山が見えた。景色もよく、熱心に写真を取る受講者もいた。また、家族づれの受講者は有料の望遠鏡を利用し、同伴の子どもにも覗かせていた。城内を一周した後、外の公園へと移動し、残り 30 分ほどとなったところで事前に作成されたクイズの答え合わせをした。専門ガイドの方により説明されていたため、ほぼ全ての受講者が全問正解であった。それゆえじゃんけんによって景品を選ぶことになったが、受講者の中には「じゃんけん」を知らない、もしくは日本語で「ぐー、ちょき、ぱー」というのを初めて知ったという人もおり、しばしその話題で盛り上がった。その後、おしゃべりボランティアの方々と講師を交えて数人のグループに別れ、おしゃべりタイムを行った。浜松城の感想や日本語の勉強、自身のことなど、様々な話題で話している様子であった。



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

第1期

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
田村エミリオ	ポルトガル語(ブラジル)	20 年	9 回	授業, 通訳

金城アイコ	ポルトガル語(ブラジル)	18 年	4 回	授業, 通訳
中島イルマ	ポルトガル語(ブラジル)	18 年	3 回	授業, 通訳
金城ジゼレ	ポルトガル語(ブラジル)	18 年	3 回	授業補助, 通訳
秋元ルシナ	ポルトガル語(ブラジル)	12 年	7 回	託児担当

第2期

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
田村エミリオ	ポルトガル語(ブラジル)	20 年	8 回	授業, 通訳
金城アイコ	ポルトガル語(ブラジル)	18 年	8 回	授業, 通訳
中島イルマ	ポルトガル語(ブラジル)	18 年	7 回	授業, 通訳
金城ジゼレ	ポルトガル語(ブラジル)	18 年	8 回	授業補助, 通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

第1期

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
水谷萌子	浜松学院大学	日本語教員養成課程	9 回	事業補助
土屋愛	浜松学院大学	現代コミュニケーション学部	9 回	おしゃべりボランティア
新村久子	浜松学院大学	日本語教員養成課程	3 回	おしゃべりボランティア
岩倉成洋	浜松学院大学	日本語教員養成課程	2 回	おしゃべりボランティア
沢木恵子	地元住民	HICE日本語ボランティア養成講座修了	6 回	おしゃべりボランティア
世田和子	地元住民	HICE日本語ボランティア養成講座修了	1 回	おしゃべりボランティア
山田文好	地元住民	HICE日本語ボランテ	5 回	おしゃべりボ

		ィア養成講座修了		ランティア
菊地奈々子	地元住民	HICE日本語ボランティア養成講座修了	1 回	おしゃべりボランティア
北澤和寿	地元住民	特になし	1 回	おしゃべりボランティア
有海雅子	地元住民	HICE日本語ボランティア養成講座修了	2 回	おしゃべりボランティア

※その他…杏林堂薬局、折り紙ボランティアサークルのみなさんにご協力をいただいた

第2期

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
山崎由実子	名古屋市立大学	国際文化	9 回	事業補助
小山博通	地元住民	HICEポルトガル語講座受講生	4 回	おしゃべりボランティア
牧野友紀	地元住民	病院勤務	2 回	おしゃべりボランティア
瀬戸誠	地元住民	HICEポルトガル語講座受講生	2 回	おしゃべりボランティア
高矢好美	地元住民	HICEポルトガル語講座受講生	7 回	おしゃべりボランティア
マナーズ秀子	地元住民	特になし	1 回	おしゃべりボランティア
山田文好	地元住民	HICE日本語ボランティア養成講座修了	7 回	おしゃべりボランティア
菊地奈々子	地元住民	HICE日本語ボランティア養成講座修了	7 回	おしゃべりボランティア
安藤みねこ	地元住民	特になし	2 回	おしゃべりボランティア
白松寛子	地元住民	特になし	1 回	おしゃべりボランティア
岩井律也	地元住民	ブラジル留学経験有り	1 回	おしゃべりボランティア

※その他…いけばなボランティアサークル、茶道サークル、浜松城観光案内ボランティア、浜松市消防本部高台出張所のみなさんにご協力をいただいた

● フィリピン人のための日本語教室

① 日本語教室の名称

「フィリピン人のための日本語教室」

② 開催場所

浜松市多文化共生センター

③ 学習目標

日常生活に必要な入門レベルの日本語、日本の習慣やマナーの習得

④ 使用した教材・リソース

主教材 母国語対訳付き動詞活用表、講師自作教材など

副教材 生活ガイドブック、防災パンフレット

教 具 ホワイトボード

⑤ 受講者の募集方法

フィリピン人がよく利用するレストランに配布を依頼、浜松国際交流協会へ相談に訪れるフィリピン人へ配布

⑥ 受講者の総数 43 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 36 時間 (全 18 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

第1期

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月18日	2時間	13人	全てフィリピン人・タガログ語、英語	教授者2人	自己紹介、申込書の書き方 講師自作教材使用
②	7月25日	2時間	11人	全てフィリピン人・タガログ語、英語	教授者2人	病院に行く 講師自作教材使用
③	8月1日	2時間	14人	全てフィリピン人・タガログ語、英語	教授者2人	時間、曜日 講師自作教材使用
④	8月8日	2時間	11人	全てフィリピン人・タガログ語、英語	教授者2人	時間、曜日、動詞 講師自作教材使用
⑤	8月22日	2時間	12人	全てフィリピン人・タガログ語、英語	教授者2人	ごみについて

				ガログ語、英語		講師自作教材 使用
⑥	8月29日	2時間	10人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者1人	復習テスト 講師自作教材 使用
⑦	9月5日	2時間	8人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者1人	注文をする 講師自作教材 使用
⑧	9月12日	2時間	7人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者2人	マクドナルド 体験 講師自作教材 使用
⑨	9月19日	2時間	4人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者2人	日本料理体験、 修了式

第2期

回	開催日時	時間数	参加 人数	国籍・母語（人）	教授者・補 助者人数	内容
①	11月28日	2時間	5人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者2人	自己紹介 講師自作教材
②	12月5日	2時間	4人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者2人	場所・所在を表 すことば、フィ リピンの風水 講師自作教材
③	12月12日	2時間	5人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者2人	買い物 講師自作教材
④	12月19日	2時間	6人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者2人	クリスマスパ ーティー
⑤	1月16日	2時間	8人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者2人	休みの過ごし 方、年末年始 講師自作教材
⑥	1月23日	2時間	10人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者1人	119番通報 体験 消防パンフレ ット
⑦	1月30日	2時間	14人	全てフィリピン人・タ	教授者1人	電話対応、コー

				ガログ語、英語		ヒーの入れ方 講師自作教材
⑧	2月6日	2時間	13人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者2人	お茶の入れ方 講師自作教材
⑨	2月13日	2時間	13人	全てフィリピン人・タ ガログ語、英語	教授者2人	バレンタイン 講師自作教材

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

● 第1期

【第8回】 マクドナルド体験

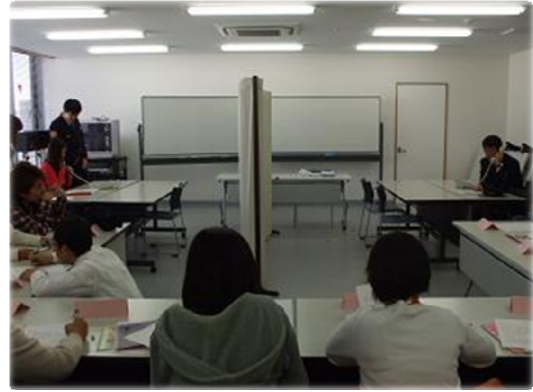
この日は日本マクドナルド浜松高林店をゲストに招き、カウンターでの買い方を学んだ。店側は本物さながらのレアリアを用意してくださり、臨場感あふれる体験ができた。今までは「コレ、コレ」と指を指して買うだけだった学習者が、「ハンバーガーのセットをください」と言える様になり、早速店に行って通じるか実践した人もいたようだ。日本人のおしゃべりボランティアも多く参加し、学習者とペアになって練習することができた。いつもよりも多く日本語でコミュニケーションができたので、満足度の高い授業になった。



● 第2期

【第6回】 消防体験

浜松市南消防の方を招き、119番通報体験を行った。緊急事態にどのような対応をすればよいのかを学ぶことができた。火事や救急が119番であることを知らない学習者もあり、話せない学習者も一生懸命与えられた場面での通報をしていた。最後に、日本人のおしゃべりボランティアの方が実際に司令部に電話をすることができた。見ている学習者もドキドキしながら聞き入っていた。



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

第1期

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
水口パズ	タガログ語(フィリピン)	14 年	9 回	授業, 通訳
中村グレイス	タガログ語(フィリピン)	12 年	7 回	授業, 通訳

第2期

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
水口パズ	タガログ語(フィリピン)	14 年	4 回	授業, 通訳
中村グレイス	タガログ語(フィリピン)	12 年	7 回	授業, 通訳
藤田ダリア	タガログ語(フィリピン)	4 年	9 回	授業, 通訳
牧野リナ	タガログ語(フィリピン)	2 年	9 回	授業, 通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

第1期

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
東芳子	地元住民	特になし	3 回	おしゃべりボランティア・料理

				講師
鈴木美佐子	地元住民	特になし	2 回	おしゃべりボランティア・料理講師
笹山賢司	静岡大学	工学部	1 回	おしゃべりボランティア
駒田和史	静岡大学	工学部	1 回	おしゃべりボランティア
松葉優子	HICE日本語教室講師	日本語教育	1 回	おしゃべりボランティア
菊地奈々子	HICE日本語教室講師	HICE日本語ボランティア養成講座修了	1 回	おしゃべりボランティア
市川佳澄	静岡文化芸術大学	国際文化学科	1 回	おしゃべりボランティア
渥美貴和	静岡文化芸術大学	国際文化学科	1 回	おしゃべりボランティア

※その他…日本マクドナルド浜松高林店のみなさんにご協力をいただいた

第2期

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
松本義一	浜松学院大学	日本語教員養成課程	9回	事業補助
神田あゆ美	地元住民	マナー講師	1回	ゲスト講師
影山やえ子	地元住民	茶道家	1回	ゲスト講師
東芳子	地元住民	特になし	6回	おしゃべりボランティア
鈴木美佐子	地元住民	特になし	1回	おしゃべりボランティア
田中美穂子	地元住民	特になし	1回	おしゃべりボランティア
川添裕子	浜松学院大学	日本語教員養成課程	8回	おしゃべりボランティア
若山良子	地元住民	特になし	5回	おしゃべりボランティア
吉田敬一	浜松学院大学	教授	2回	おしゃべりボランティア
沖原由美子	聖隷病院	看護師	4回	おしゃべりボランティア

※その他…浜松市南消防のみなさんにご協力をいただいた

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

ブラジル人のための日本語教室では、指導者も増え、入門と初級のレベル別に2クラスで実施。第2期は、さらにレベルを3つに分け学習ニーズにこたえた。

フィリピン人のための日本語教室では、当初1クラスで構成。第2期からは、

② 学習者の習得状況

日本語のみならず、日本での生活におけるマナーや習慣、文化を学んだ。その結果、年末に失職したブラジル人がこれまで学習した成果を生かし、年明けに就職をすることができるとした。フィリピン人の学習者のうち、4人が16歳の子どもたちであったが、そのうちの1人が教室で学んだことを生かして郵便局の仕分けのアルバイトを得ることができ、社会での自立に促すことができた。

※アンケート結果は別添のとおり

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

いずれの日本語教室でも、彼らの生活実態から学習ニーズをとらえて行うことができた。もとよりバイリンガル教師が母国語を使用しながら指導する日本語教室に対するニーズが、高かったことも反映しているが滞日年数のわりに初めて日本語を学習する機会を得た学習者も多かった。これは、指導者が当初よりブラジル人やフィリピン人の性質なども把握できていたため学習者の興味と継続的な学習につながった。年齢層も幅広くなっていったことは、まさにニーズを捉えた成果であると考えられる。一方、これらの教室は地域にもたらした影響は強い。たとえば、「おしゃべりタイム」では、地域在住の日本人ボランティアの活動に対してもバイリンガル教師がイニシアチブをとり、かつ学習者との交流を深めることもできた。このことは、地域住民としての自覚を芽生えさせることにもつながり、地域のまつりへの積極的な参加も促せた。その結果、日本人と外国人が一緒になって作り上げる教室ができたのではないと思う。やはりバイリンガル教師の指導では、彼らが何を学びたいと感じているのかを瞬時に把握でき、効果的な学習につながられる。また、彼らが先輩外国人であることから同郷人の「生活」を支えるための自立支援にもなり、外国人同士が自助努力をするようになった。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

地元薬局や商店(マクドナルド)などの協力もあり、生活場面を想定したリアルな教室が展開されたため、実際にコミュニケーション力を高める機会を得られた。こうした店舗にとっては、企業の営業成果を高めることにもつながるので、消費者としての外国人が位置づけられたようだ。

ブラジル人のための日本語教室では、地域の公会堂で開かれた夏祭りに急きょ参加。これは公民館長の提案で、公民館と自治会のはからいでこの企画が実現された。初体験の「餅ひろい」では、日本人の方から拾い方を教わる学習者もいて、自発的なコミュニケーションが促進されたようだった。

また、いずれのクラスでも消防署との連携が行われ、緊急時の対応方法（電話の仕方）や地震災害時の避難方法について指導を受けた。消防車に乗ったり、救急車を見たり、緊急電話の練習を実際にロールプレイなどして実践的に学ぶことができた。こうした情報提供は、生活の緊急事態に対応する能力を養うことができる。一方、地元消防署（派出所）にとっては、外国人との初めての消防訓練だったため、外国人に対する伝え方を学ぶ機会にもなったと推測できる。

⑤・ 改善点, 今後の課題について

a. 現状

年末の金融危機の影響で、仕事を失う定住外国人が多い。安定した生活を営むためには、経済的負担が少なく、実践的で習得率の良いバイリンガル指導者による教室の開催が急務である。そのためには、これまでの教室内容を再考し、指導者に対するフォローアップとコースデザインの見直しが必要である。

b. 今後の課題

- ・集住地区以外での教室の増設
- ・バイリンガル教師の育成

c. 今後の活動予定, 展望

浜松国際交流協会が主催した「求職者のための日本語教室」(市委託事業)では、バイリンガル教師養成講座が活躍し、ブラジル人のための日本語教室で得たノウハウを活用することができた。そこで、ブラジル人やペルー人、中国人など、今年度養成されたバイリンガル講師の活用により、地域ベースでの外国人コミュニティによる就労支援のための日本語教室で展開を図っていきたい。

一方、フィリピン人のための日本語教室は、日本人妻の立場で定住しているフィリピン人が多いため、上述のような教室に来る学習者との背景が異なる。こうしたことから、引き続きフィリピン人コミュニティのための日本語教室を開催するため、その学習ニーズと社会的ニーズを分析したうえで、教室の設置について検討していく。

⑥ その他参考資料

※「第2期ブラジル人のための日本語教室」公民館まつりで使用したスタンプカード